



資料提供

令和7年5月20日  
 課名：環境・エネルギー産業課  
 担当者：島  
 内線：3364  
 直通電話：082-513-3364

＼今年度より制度を大幅リニューアル！！／

広島県カーボンリサイクル関連技術研究開発支援事業の募集開始

公募期間：令和7年5月20日(火)～令和7年8月1日(金)

リニューアルした支援制度「CR-SANDBOX（カーボンリサイクルサンドボックス）」

令和4年度から、カーボンリサイクル関連技術の研究開発及び実証に取り組む大学や企業等の研究者を支援する「広島県カーボンリサイクル関連技術研究開発支援事業」を実施しています。

今年度から、カーボンリサイクル技術の社会実装をさらに後押しすべく制度をリニューアルし、**新たな研究開発支援事業「CR-SANDBOX（カーボンリサイクルサンドボックス）」**としてスタートします。最大2,100万円/件の研究・実証資金と、将来的なステップアップを見据えた伴走支援を行うほか、若手研究者に特化した支援プログラムを新設するなど、多くの企業や研究者の皆様のチャレンジを力強く後押しいたします。

＜リニューアルのポイント＞

- ① 研究・実証支援メニューの見直し  
 カーボンリサイクル技術の社会実装に向け、「サプライチェーン構築支援型」区分を創設し、基礎研究から実証、事業化に至るまで**あらゆる段階の研究開発に対して充実した支援**を行います。
- ② 若手研究者の育成支援メニューを新設  
 将来を担う若手研究者にカーボンリサイクル技術研究の裾野を広げるべく、**若手研究者に特化した支援プログラムを新たに設け**、既存研究はもちろん新たにカーボンリサイクル技術に係る研究に取り組みたい皆様に対しても、研究費の支給や研究のステップアップ支援を行います。

＜事業概要＞

① カーボンリサイクル(CR)技術の研究・実証支援

	区分1： 基礎研究支援型	区分2： SU等県内実証支援型	区分3： サプライチェーン構築支援型
概要	CR製品開発に向けた基礎研究を支援	広島県内の事業者と連携し、開発・実証する事業への支援	CR製品のサプライチェーンを構築し、事業化を目指す事業への支援
対象者	大学等研究機関、中小企業の研究者	企業	企業
補助額	最大400万円/2年 (上限100万円/半年)	最大600万円/1年半 (上限200万円/半年)	最大2,100万円/1年半 (上限700万円/半年)
補助率	10/10	中小企業：10/10 中堅企業：2/3 大企業：1/10	中小企業：2/3 中堅企業：3/5 大企業：1/2
主な要件		あらかじめ広島県内企業と連携し、広島県内で実証研究	あらかじめ広島県内企業を含む企業とサプライチェーン体制を構築

## ② 若手研究者育成支援

対象	カーボンリサイクル分野の研究をする原則 35 歳未満の研究者
支援額	最大 50 万円/件
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家による研究ステップアップ支援(令和7年 10 月～令和8年9月)</li> <li>・研究成果発表機会の提供(令和8年 11 月頃)や関係企業との交流によるマッチング支援</li> <li>・NEDO のカーボンリサイクル人材育成事業と連携した支援</li> </ul>

### <応募方法>

#### ○ スケジュール

令和7年5月 20 日	募集開始
8 月 1 日	募集締切
9 月末まで	採択審査、採択者決定
10 月 1 日から	支援事業開始

#### ○ 応募・詳細

特設サイトより応募( <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/77/cr-sandbox.html> )



### <これまでの研究事例>

#### ○ DAC 法\*による CO<sub>2</sub> を固定・吸収した漁礁ブロックの開発

##### 大気中の CO<sub>2</sub> で瀬戸内海を豊かに

炭酸カルシウムを製造する企業と県内コンクリート二次製品メーカーが連携し、大気中の CO<sub>2</sub> を由来とするカーボンリサイクル型の炭酸カルシウムを原料に、藻が着生しやすい魚礁ブロックを製造し、県立総合技術研究所の技術支援制度を活用して、藻の着生状況の確認などの実証実験を行っています。今後は、広島県海域へのカーボンリサイクル型の魚礁設置を目指しており、県としてもさらなるマッチングを検討するなど、取組を推進しています。



※ DAC 法…Direct Air Capture の略で、大気中の二酸化炭素を直接回収する技術のこと。

#### ○ メタン発酵システムによるバイオガスからの CO<sub>2</sub> 分離回収技術の開発

##### 捨てられる農作物からエネルギーを生産

農作物の残さからバイオガスを生産し、同時にバイオガスからの CO<sub>2</sub> を吸着・回収する実証に県内の大学や装置メーカーと連携しながら取り組んでいます。今後は、バイオガス中のメタンは燃料や発電に、CO<sub>2</sub> は農業ハウス栽培に利用するスキームの構築を目指しています。また、外部電源や化石燃料が不要であることから、停電時の活用や途上国への展開・導入も検討されています。

